

## ～いつまでも元気に「地域交流プログラム」の実践～

平塚市  
社会福祉法人富士白苑 平塚富士白苑 デイサービス  
施設長補佐 三浦 好則

### 1 はじめに

社会福祉法人富士白苑では、「本当は介護なんて受けたくない。」「自分の思うように望む場所で思うように暮らしたい。」という誰もが思う真意に向き合い、良い介護とは、“ご利用者の望む事を支援する事”であり、ご利用者の望む事とは“元気になる事”であるという考えの下、すべてのご利用者に元気になって頂く為の「元気プログラム」を実践しています。

特別養護老人ホームは終の棲家という概念を打開し、全ての方に在宅復帰を目指して頂き、心も体も元気になって頂く取り組みを推進していますが、本事例は、在宅介護を支える通所介護において、ご利用者の望む在宅生活を維持・向上する為に、ご利用者が生活する地域においてより元気にお過ごし頂く源として、昨年10月より実施した地域交流プログラムを紹介させていただきます。

### 2 事例や取り組みの紹介

ご利用者に元気になって頂く為には何をしたらよいかという検討の中で、通所介護の役割である「元気な在宅生活を維持する」為に、ご利用者の地域コミュニティを広げて頂く事により、生活をより元気で楽しいものにして頂くことができ、地域とのつながりが在宅生活を支える大きな効果を果たすと仮定し、ご利用者の住む地域で、お一人お一人に適したコミュニティをご紹介します、興味を持って参加していただく事を目指し取り組みました。また、この取り組みを行う事で、ご利用者とスタッフのコミュニケーションを通所介護内の話題から、ご利用者の暮らしに焦点を当てることとなり、これまでと違った在宅支援のコミュニケーションが強化される事も目的としました。

まず、通所介護のご利用者の住まいを地域ごとに区画し、それぞれのイベントやサークルをピックアップしてご利用者への紹介を開始致しました。

開始当初は、紹介を行ってもなかなか参加するまでには至りませんでしたが、これはご利用者へご紹介した地域交流に参加する為の手段が最も大きな課題であると開始当初から予測していました。ご自分で地域交流の会場まで向かう事の出来る方は少なく、多くの方はご家族の協力を頂ければ参加が実現しません。そこで、地域ごとにご紹介案内を作成し、ご家族様へもお届け致しました。

ご紹介と参加の確認を続けることで、徐々にご利用者との会話に変化が見られ、下記の様な話題が聞かれるようになってきました。

- ・紹介されたイベントには参加しなかったが、別のイベントに参加してきたよ。
- ・そのイベントには興味がないけど、〇〇なら行きたいな。
- ・合唱サークルに参加しているから、デイサービスでボランティアとして演奏しましょう。
- ・自分で調べたらダンベル教室を見つけたので参加するようになった。終わった後にお昼ご飯を食べ

る〇〇という店が美味しんだよ。

- ・ご利用者同士で仲良くなり、月に一度家に遊びに行ってお飯を一緒に食べていますよ。
- ・親を千葉から呼び寄せたばかりで、退屈させてしまっていたから是非参加させたい（ご家族様より）。

少しずつではありますが、実際のイベントの参加報告以外にもご利用者様が地域交流に興味を示されたり、実際の参加への調整の中でご利用者様とご家族様の架け橋となる効果が見られてきました。

この様な取り組み成果が確認されつつある一方で、この取り組みの最大の課題は「自宅から地域交流に向かう際の手段」と考えます。

在宅生活での地域交流としての目的を考えると、ご家族様と担当のケアマネジャー様との連携が大切な事項となり、主としてサポートされるご家族様の協力を頂ける事が大きなポイントとなります。この課題を解消する為の手がかりとして、施設とご家族様のコミュニケーションを強化する為に「通所介護家族会」を8月27日に実施し、ご家族様へ取り組みの紹介とご意見を伺いました。ご家族様からは「ご利用者様の個性性を重視した楽しみを大切にしていきたい」というご意見や、「通所介護の利用日以外の過ごし方についてどうしたらよいか分からず、他のご利用者様はどのように過ごしているのかを知りたい」また、「介護についての相談があるがどうしたらよいか？」というご意見、ご相談を頂きました。

これらご家族様の声も伺うと、やはり地域交流の促進は求められるものである事を改めて感じました。

現在、ご利用者様が在宅で生活しやすい地域支援として、地域向けの初任者研修（受講料無料）、介護教室、認知症サポーター養成講座、デイサービス機能訓練用マシンの日曜開放等を実施しておりますが、今回の通所介護家族会のご意見を踏まえて、ご家族様向けに、介護相談を個別に対応させて頂く事を改めて促進し、「個別の介護教室をご利用者様のご自宅で実施する」という新しい取り組みを実施していく事としました。

### 3 考察

地域交流を行うご利用者様はご自分の好きなものに意欲的に参加している事で、その話題に触れると非常に生き活きと話され、これまでと違った笑顔や話題が見られるようになってきました。歳を重ねる毎に地域や社会とのつながりが少なくなっていく中で、この取り組みをきっかけに交友関係やコミュニティを構築して頂く事は、この繋がりを持ち続け、「いつまでも元気で自宅で過ごし続けたい」というご利用者様の心と体の元気の源となると考えます。

#### \*地域交流プログラムのご紹介と参加状況

	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	合計
延べご利用者様数	1,559	1,612	1,629	1,606	1,480	1,548	1,353	1,222	1,369	13,378
ご紹介人数	168	173	179	138	159	178	148	153	174	1,470
参加者人数	25	39	28	12	10	12	10	21	0	157
ご紹介率	10.8%	10.7%	11.0%	8.6%	10.7%	11.5%	10.9%	12.5%	12.7%	11.0%
参加率	14.9%	22.5%	15.6%	8.7%	6.3%	6.7%	6.8%	13.7%	0.0%	10.7%

#### \*ご紹介の一例

さかなの朝市（大磯港） 骨太体操講習会（ふれあい会館） シネマサロン（図書館）  
囲碁サロン（福祉会館） わらべの会\*編み物、手芸、脳トレ（福祉会館）  
社交ダンス練習会（公民館）

#### 4 おわりに

今回の取り組みのポイントは、在宅のご利用者様に元気になって頂く為に、地域交流のきっかけを作る事と、在宅支援に対するコミュニケーションの強化です。地域交流への参加についての移動手段という課題ポイントがありますが、ここを通所介護内でイベント支援的に実施するだけでは、単発のイベントで終わってしまいます。この取り組みで大切にしたいことは、ご利用者様にとって地域とつながり続ける事が真の目的であり、ご利用者様を支えるご家族様支援も対象に実施してきましたが、今後この取り組みを進めて行く上では、地域交流に参加しやすい環境の整備が必要と考えます。

今後の展開として、法人内にある地域包括支援センターと連携し、更にご利用者様ごとにあつた地域交流の選定と、参加しやすい場所やご家族様も巻き込める交流を検討し、近くのコンビニに出かけるようなものから、大勢の仲間を作れるようなものまで、ご利用者様を中心とした地域での交流の幅を広げ、それぞれの生活の場で元気になって頂ける事を目指していきます。

この取り組みを進めていく事で、ご利用者様目線での地域包括ケアシステムが構築されていくのではないかと考え今後の展望を進めて行きます。